

(第1回) 地域コミュニティのあり方検討委員会 会議録

○ 日 時 平成30年5月14日(月) 午後7時00分から午後9時10分まで

○ 場 所 西条市役所 庁舎新館4階 404会議室

○ 出席者 委員(15名)

青野 信樹 委員 阿蘇 浩造 委員 井上 康 委員

宇佐 裕次 委員 岡本 将広 委員 川上 善秋 委員

黒河 幸子 委員 白石 澄子 委員 田口 勝三 委員

田口 勝敏 委員 處 淳子 委員 野島 貴子 委員

野田ゆり子 委員 坂東 君良 委員 渡部 克彦 委員

アドバイザー(1名)

櫻井 常矢(高崎経済大学 地域政策学部 地域づくり学科 教授)

事務局(4名)

田村三智子(企画情報部 市民協働推進課長)

井上 直樹(企画情報部 市民協働推進課 協働推進係長)

戸田 和宏(企画情報部 市民協働推進課 地域組織係長)

竹内 敏博(西条市市民活動支援センター)

○ 会次第

1 開会

2 市長挨拶

3 委員紹介(自己紹介)

4 事務局及びアドバイザー紹介(自己紹介)

5 委員会の設置経緯について(事務局説明)

6 地域コミュニティの全国的動向と西条市の現状について(講話)

7 議題

(1) 委員長及び副委員長の選出について

(2) 委員会の運営について

(3) 委員会の検討項目及びスケジュールについて

(4) その他

8 閉会

○ 議題審議要旨

事務局	議題（１）委員長及び副委員長の選出について、事務局から説明する。
事務局	本委員会では、「地域コミュニティのあり方検討委員会設置要綱」第５条の規定により、委員長及び副委員長は、委員の皆様方の互選により定めるとしているが、この件について、意見はないか。
田口勝三委員	私は、連合自治会の会長を務めているので、本来であれば、私が委員長を務めるべきかとも考えるが、この委員会には、若い方も多くおられるので、若い方にお願いしたい。 どなたか適任の方がいらっしゃるなら、ご推薦いただければと思う。
事務局	他に意見がないようなら、事務局より提案してよろしいか。 （異議なし） 事務局案として、委員長を岡本将広委員、副委員長を野島貴子委員にお願いしたい。 （拍手） それでは本委員会の委員長は岡本将広委員に、副委員長は野島貴子委員にお願いする。
委員長	（委員長挨拶） それでは、議題（２）委員会の運営について、事務局から説明をお願いします。
事務局	この委員会は、一般の方にも傍聴できるよう公開とし、委員会の日程、委員名簿、会議録要旨及び報告書については、市ホームページ等で公開することとしたい。 また、会議の傍聴にあたり、傍聴要領を定めたい。
委員長	事務局からの説明について、質問等はないか。
處委員	会議録を市ホームページに掲載する前に各委員が内容を確認する機会はあるか？
事務局	事務局で作成し、委員長に確認いただいた後、市ホームページに掲載する予定であるが、掲載前に確認したいということであれば、その確認方法を決めたい。
委員長	現状では、私が確認した後、公開されることになるので、問題があるようであれば、意見をお願いします。

井上委員	会議の終了後、掲載までの期間は、どれくらい掛かるのか？ １～２週間の間、委員が確認していたら時間が掛かるのではないかな。
事務局	２時間の会議を文字にし、要約の上、メール等で委員の皆さんに確認してもらうのは、メールに気づくまでのタイムラグなども考えると、時間が掛かることは間違いない。 自らが発言した内容だけを確認してもらうという方法であれば、時間も短縮できると考える。
處委員	ある勉強会に参加した際に作成された会議録を見たときに、発言した内容とまったく違うことが会議録となっていた。 役職や自分のプロフィールが違っているなど、取るに足らないことかもしれないが、自分の発言に関しては、誤解を生まないように確認したいと思う。委員の皆さんもそれぞれ、役職を持たれ、影響力はゼロではないと思うので、確認させてもらえるならありがたいという希望である。 あと、１点、会議の傍聴者に会議を傍聴した際の感想をもらうことはあるのか？
事務局	現状では、傍聴のみと考えているが、アンケートを用意し、記入してもらうというやり方にすることは出来る。
處委員	せっかく傍聴に来られたのであれば、感想などを書いてもらった方が良いと思う。
委員長	〇〇委員と名前を出す必要はあるのか？
事務局	名前を出す方法もあるし、 A委員、B委員というようにアルファベットで表記する方法もある。
委員長	委員会を進める上で、活発に意見が出る方が良いと思う。名前が出ることで、発言が出にくくなるとも考えるが、皆の意見はないか？
野島委員	会議録を確認させてもらえるのであれば、名前が出て納得できるので、私も賛成である。A委員という表記であれば、プレッシャーはないと思うが、会議録を確認させてもらえるのであれば、活発に意見を言える。
井上委員	委員名簿には、所属まで掲載されるのか？所属を入れることで、どこの誰だと特定できる。
阿蘇委員	名前を入れ、誰が、どんな発言をしたかと、はっきり残した方が良い。批判されることがあっても、それは構わないと思う。

委員長	それでは、会議録の確認が必要な方は、確認を行うという形では、どうか？
坂東委員	ホームページに掲載された後に修正も出来ると思う。このような会で意見を言うということは、自分の言葉には責任をもって、完全にオープンにし、内容が違ふということがあれば、修正を行えば良いのではないか。確認する方が大変だと思う。
井上委員	掲載されてからの修正だと、おそらく最初の内容が走ってしまい、修正しても駄目だろう。会議録を確認する期限を決めて、返事がなければ、それでいくというように、早くできる方法でやった方がよい。 パソコンのメールで送ってもらえれば確認できる。
委員長	市ホームページは、ユーザー登録のようなもので、メンバーだけが見ることができるような機能はあるのか？
事務局	市のホームページにそのような機能はないので、何らかのアプリケーションや民間のサービスを利用する以外に方法はない。
田口勝敏委員	会議録のイメージはどのようなものか？詳細なことが書いてあるのであれば作成に時間が掛かるだろう。
事務局	一言一句を会議録に残すわけではない。例えば同じことを繰り返し発言しても1回の発言とするなど。また、方言などを修正することはある。
委員長	同じような委員会で前例はあるか？
事務局	市民活動支援センターを設立した時の委員会では、事務局が会議録を作成し、委員長に確認してもらおうという、今回の委員会と同様の方法をとった。
委員長	特に問題はなかったか？
事務局	特に問題はなかった。あまり、ホームページが見られていなかっただけかもしれないが、人に見られる、見られないということではなく、自分の発言と意図が違ふものが残るということは良くない。
委員長	確認したい方だけ確認して、レスポンス良くやっていくという方法もあるが、他に会議録を確認したいという方はいるか？
處委員	意図していないことが出るということを経験したことがあるので、心して発言するつもりではあるが、会議録を確認するためのタイムラグや手間が掛かるということであれば、委員長に一任するという方法でも私は構わないが、会議録を確認したいという気持ちもある。

事務局	会議録を確認してもらうために、あまりにも時間と労力が掛かるようであれば、やはり委員長に一任するというように、やり方を途中で変えることもできる。 また、井上委員の言われるように、仮に委員の全員がメールを利用しているのであれば、委員全員にメールで送付し、何日までに確認してもらうという方法もできるが、その前提として、メールを利用していない方はおられるか？
委員長	誰もおられないようなので、第１回目は、全員にメールで送付してみてもどうか？
田口勝敏委員	ワードやエクセルが利用できるパソコンのメールか？
事務局	タブレットやスマートフォンでもワードやエクセルが確認できればよい。
委員長	では、第１回の会議録は、全員に配布する。以後はやってみて考えるということで。
事務局	何日以内にホームページに掲載しなければならないと決まっているわけではないが、２回目が開催されるまでには掲載したいと考えている。
田口勝三委員	委員として責任をもって発言をしないといけないというのはよくわかる。しかし、委員の名前を出すということで、自分の本当の意見が言い辛いということもあるのではないか。委員の名前は出さずに、誰が発言したとわからないほうがいいのではないか。 そうすれば、手間も掛からないし、逆に良いと思う。
委員長	匿名にするということか？
田口勝三委員	匿名というわけではなく、発言の要旨を箇条書きにしてはどうか？
委員長	確かにその方が、意見も出やすいと思うがいかがか？
阿蘇委員	色々な意見が出ているが、市役所全体では、会議録は、委員だけにとどめているのか、それとも名前まで入れているのか？
事務局	どちらの場合もある。また、名前を入れなくても発言内容で特定できてしまう場合もある。 また、今後は、５人ずつ、３グループで話し合うということも想定しているが、グループで話し合った内容は、話し合った結果を会議録に載せることになるので、発言しても名前が出てこないこともある。

阿蘇委員	それでは地域コミュニティのあり方検討委員会としては、〇〇委員と名前を載せる方向性で、内容は委員の確認をとるということで良いのではないか。いつまでにホームページに掲載するという期限がないわけであるし、次の委員会までに掲載すればよいということなら、それぞれに確認していただいた上で掲載した方が良いと考えるが、いかがか。そのルールをここで決めていただければいいのではないか。今回の議題の中で、その後の更新方法も決めれば良いと思う。
委員長	名前を載せる必要があるか、載せるならその内容を確認することだが、名前を載せないことで色々な意見が出やすいということもあると思うが、まず、名前を載せるか、載せないかの結論を出したい。 では、名前を載せ、〇〇委員のように会議録をつくる案で賛成の方は挙手をお願いします。 (挙手多数)
委員長	それでは、名前を載せるという方向で。 あとは、会議録の確認については、全員で確認すること、1週間くらいあればよいか？その1週間で確認し、返事がない場合は、問題なかったということでよいか？
事務局	返事がない場合は、承認していただいたということでよければ、手間が省ける。
委員長	では、名前を載せ、会議録については、メールで確認をとるということで。名簿については、どのようにするのか？
事務局	報告書に名簿を載せる予定なので、報告書を作成する秋ごろまでに、また相談させてもらいたい。
委員長	傍聴に来られた方へのアンケートについては、いかがか？私も意見をもらった方が良いと思う。
事務局	受付をした際に用紙を渡し、帰る際に出してもらえば、特に手間も掛からない。
委員長	出来れば、選択方式で、何らかの答えを導き出すようなものであった方が良くないか。
事務局	手間も掛からないし、意見はいただいた方が良く考える。
委員長	それでは、傍聴する方には、アンケートを取るということで、よろしいか？ (異議なし) 他に何かないか？

井上委員	傍聴者の録音禁止はわかるが、委員の録音は、構わないか？
事務局	委員の録音は、想定していなかった。
處委員	事前に録音することを申し出ればよいのではないかと研究に使うということで。
委員長	使用目的が、自身の使用であればよいのではないかと？
事務局	録音したものを公開するということは？
井上委員	自治会などで、委員会では、このような話をしているというように、参考にさせていただきたい。
事務局	会議録があるのでよいと思うが。
井上委員	承知した。
事務局	最近では、このような会でもフェイスブックやツイッター、インスタグラム等に掲載される方も多いため、傍聴者に関しては、撮影や録音を制限したいという意図である。
委員長	それでは、委員も録音はしないということで。議題２については、これでよろしいか？ （異議なし） それでは、議題（２）については事務局案を多少変更したが、承認ということで。 続いて、議題（３）委員会の検討項目及びスケジュールについて、事務局から説明をお願いします。
事務局	会議のスケジュールは、配布した資料のとおりであるが、議論の進捗状況では、１～２回、会議の追加させていただくかもしれない。 また、委員会以外でも委員の皆さんに意見を聞きに行くこともあるかもしれないので、よろしくお願いします。 検討項目については、何をどのような順番で検討するべきか難しいところなので、まずは、現状と課題の洗い出しを行い、随時、検討項目を考えていきたい。
委員長	事務局からの説明について、何か、意見や質問はないか？
田口勝敏委員	現状と課題についてだが、議題として打ち合わせする前に委員に宿題を出してもらった方が効率的に進むのではないかと。
事務局	皆さんが、それでよろしければ、事前に何か提出をお願いしたり、直接お会いして、事前にお話を伺うなどして、会議の円滑化を図らせていただけると事務局としても大変助かる。
宇佐委員	広域コミュニティのイメージが湧きにくいので、広域コミュニティの資料などがあれば、事前にいただきたい。櫻井先生が大事とお

	っしやった広域コミュニティの移行のところのイメージが湧かないので、資料をいただけたらもう少し、イメージが湧くかと思う。
事務局	これが一番という資料があるかはわからないが、イメージが湧くような資料などについては、メールなどで出来るだけ、情報提供していきたい。
處委員	今日もらっている資料の中にヒントはあるか？
事務局	事前にお配りした資料は、昨年度実施した「地域コミュニティのあり方研究会」の報告書と総務省が出している資料を一部抜粋したものである。こういった形で、議論の参考になりそうな資料は、また送るので、ご覧になっていただきたい。
アドバイザー	先ほどスクリーンに出した図のことだと思うが、事例を出すようにと言われても、きちんとした考えに基づいてやれているところが、どれくらいあるかは、微妙なところである。 失礼な言い方になるかもしれないが、西条市は、後発組であるので、全国で進んでいることから学び、うまくいっていない課題も把握した上で進めていくべきと考える。 先ほど、お話したのは、自治会の理解がないままに、広域コミュニティを編成していくと宙に浮いたままの状態となり、上手くいかないという話をした。 つまり、自治会や各種団体の方々が、どのような認識を持って、広域コミュニティを見ているかということは、資料には載っていない。広域コミュニティがどういうものであるかということは、見えるが、図の矢印で示した部分は、資料では見えない。 この図の矢印の部分は、全国をまわってみても非常に弱い、広域コミュニティだけが宙に浮いているような感じで、住民の方がついて行っていない。 言い方は良くないかもしれないが、他の地域でうまくいっていないところを説明し、ここをこうすればうまくいくのではないかとという意味で説明させていただいた。
宇佐委員	地域コミュニティに出てきた課題などが深まり、広域コミュニティで解決していくとか、手放していくというような事例というものはあるのか？
アドバイザー	広域コミュニティが解決しているものはある。
宇佐委員	移行していったというものは？

アドバイザー	自治会でやっていたことを広くやった方が良いということで、広域コミュニティでやっているというものはある。資料としては、紙では見えないので、当事者に話を聞くことが一番わかりやすいと思う。
宇佐委員	西条市ではないというのは認識しているが、そういった資料があればいただきたい。
アドバイザー	事例を見せてしまうと、どうしても真似ようとしてしまうことが、難しいところである。 委員会で、どのような形が良いかを考えてから、事例を見た方が、自分たちの考えが間違っていないことの確認にもなるし、難しいところである。 やはり、自分たちの地域が、連合自治会や単位自治会が、こういう課題を抱えている。じゃあ、それを補うためにはどうすれば良いのか、というように組み立てていった方が、この地域に合った形になるのではないかと思う。これは、資料の提供も含め、私も各地をまわっていても悩ましいところである。 事例は、山のようにあるので、昨日の夜まで事例を出すかを悩んだが、今日の説明では、事例は入れなかった。
宇佐委員	検討委員会がどういった位置づけになるかによって変わるものなのかなと。組織をつくるとかそういう立ち位置で考えていくのであれば、仕組みづくりや組織づくりみたいなのところのノウハウや考え方みたいなものがもう少し頭に入った方が。 実際に説明を聞いていて、イメージが湧きにくく、知りたいと個人的に思ったので質問させていただいた。
アドバイザー	イメージが湧きにくいように説明していると言った方が良いのかもしれない。大変、失礼をした。
委員長	では、可能な資料を出していただくということで。
アドバイザー	先ほど、言われたように、組織の形というものは、見ておいた方が良いかもしれない。
委員長	検討内容については委員会での議論をまとめていく中で新たな課題が出てくることも想定されるので、委員会の都度、皆さんと相談しながら進めていくということで。櫻井先生から検討内容についてアドバイスやなにか補足することがあれば。
アドバイザー	その都度、アドバイスさせていただく。
委員長	それでは議題（４）その他について議題とするが、本日が第１回

	の会議でありますので、自由にご発言いただけたらと思うが、いかがか。
宇佐委員	会社を経営しており、今日話を聞いて、2点、思ったことがある。福祉介護の世界だが、介護保険ができてもう20年近くになるが、介護保険が地域コミュニティを壊したとよく言われている。そういう点を、今日は話を聞いていて感じたということが1つ。 もう一つは、会社経営をしている上で経営指針、理念ビジョン、計画を立てていくというところで、今日話を聞くと、地域でもそういった視点が大事であるなど、その延長線上で思いついたのがスポーツである。私は、剣道をしており、剣道は、2年に1回か、3年に1回、世界選手権をやっているが、日本が毎回優勝する。しかし、愛媛新聞にも全国紙にも端にしか載っていない。しかし、やはり、他のスポーツでオリンピックの競技種目となったものは世界水準に合わせていっているだろうなど。地域のもの、色々な組織があれば自治会もあるが、どの水準に合わせていくかというのは、今後大事になっていく。やはりそういうのは申し訳ないが、住んでいる方も大事だが、組織をつくるという意味合いでは、別の角度からやっていく、そういう人材が必要なのではないかと聞いていて、つくづく感じた。この2点、今日は、すごく感じたので感想を言う機会があれば話をさせていただこうと思っていた。
委員長	他にないか。以上で本日の議題としていたものがすべて終了しましたが、最後に事務局から何かあるか。
事務局	— 事務連絡 —
委員長	それでは、以上で本日の委員会を閉会する。
	「了」

(第2回) 地域コミュニティのあり方検討委員会 会議録

○ 日 時 平成30年6月11日(月) 午後7時00分から午後9時00分まで

○ 場 所 西条市役所 庁舎新館4階 404会議室

○ 出席者 委員(14名)

青野 信樹 委員 阿蘇 浩造 委員 井上 康 委員

宇佐 裕次 委員 岡本 将広 委員 川上 善秋 委員

黒河 幸子 委員 田口 勝三 委員 田口 勝敏 委員

處 淳子 委員 野島 貴子 委員 野田 ゆり子 委員

坂東 君良 委員 渡部 克彦 委員

アドバイザー(1名)

櫻井 常矢(高崎経済大学 地域政策学部 地域づくり学科 教授)

事務局(5名)

田村三智子(企画情報部 市民協働推進課長)

井上 直樹(企画情報部 市民協働推進課 協働推進係長)

戸田 和宏(企画情報部 市民協働推進課 地域組織係長)

戸田 聖子(西条市市民活動支援センター)

竹内 敏博(西条市市民活動支援センター)

○ 欠席者 白石 澄子 委員

○ 会次第

1 開 会

2 委員長挨拶

3 議題

(1) 地域コミュニティの現状と課題

(2) 次回の委員会に向けて

(3) その他

4 閉 会

○ 議題審議

議題（１）地域コミュニティの現状と課題

（※３つのグループに分かれて協議を行った。協議の際に付箋に書き出した意見を分類の上、以下に掲載。）

『テーマ① 地域で活動する団体の組織的な困りごと、不足していること、今後必要になりそうなこと』

【若者に関すること】

- ・地域の中で若者が活躍する場が少ない
- ・若い人材の不足
- ・若い人にどんどん役をお願いする。交流は大切
- ・若者と子どもの人数が少ない、高齢者が多い
- ・若い人のなり手がいない
- ・若手の参加
- ・若者の参加が少ない
- ・若い方の意見が反映されにくい
- ・高齢者の方が多い⇨若い方の参加が少ない

【団体運営や活動に関すること】

- ・自治会未加入
- ・年齢が達していても老人会に入ろうとしない
- ・校区婦人会については、やはり婦人会は校区に必要だと思うのでもっと運営がスムーズに出来るようにもっと協力する人が増えてほしい
- ・地域の改善へ向けての意欲が分散している
- ・中期的な組織づくり→継続性
- ・課題解決にむけ集中的・継続的に取り組めない
- ・PTA活動に協力的でない保護者の増加
- ・自治会への加入世帯の低下
- ・イベント消化型で行事がマンネリ化
- ・連合自治会のイベントが多い
- ・自治会（単位）総世帯の参加が必要か？
- ・自治会に楽しそう、面白そうのイメージがない
- ・親世代→子世代への引継ぎがうまくいかない
- ・組織のあり方の価値観の違いの統一が難しくなる

- ・防災の取得が自治会長の推薦が必要？
- ・公民館に色々な部会があるので連合自治会として部会を作れない？
- ・単位自治会と連合自治会がそれぞれの組織として何をしていいのかがわからない
- ・参加者不足
- ・一体感を感じることに

【団体役員に関すること】

- ・自治会において、自治会長のなり手が中々いない、又、その自治会内での役割分担についても難しい
- ・会長を含め役員になり手がほとんどいない→順番で決めている
- ・役員の高齢化
- ・会長の選任に苦勞する
- ・リーダーの育成ができないのでは、人材不足
- ・役のなり手がいない
- ・各種団体の長がコミュニケーションを取れる場がほしい。横のつながりが少ない
- ・リーダーシップがとれる人材が不足
- ・人材の育成
- ・輪番制が悪いのでは？
- ・引き受ける人と引き受けない人で分かれる（同じ人がどんどん忙しくなる）
- ・70代、80代のとりしきり
- ・次の時代を担う人材が不足している

【会議や話し合いに関すること】

- ・地域課題の集約が難しい
- ・報告のみで会議が活性化していない
- ・話し合いの機会と内容が極端に不足している
- ・学校と地域の人々の考え方の違い
- ・色々な人、組織からの課題を出し合う場が必要になる
- ・話し合いの機会があるようでない（共働き世代の）
- ・子ども同士のコミュニケーション不足
- ・単位自治会長が集まる定期的な会を開催していない

【その他の意見】

- ・公民館が中心となった地域づくりが出来るかが不安
- ・学習活動に対する地域の支援
- ・近隣、個人の情報不足
- ・企業と地域住民の意見交換の場
- ・企業の力を活用する
- ・独居老人
- ・買い物難民が出て来る

『テーマ② テーマ①から見えてきた課題に対し、どうあるべきか、どのような組織であるべきか』

【若者や子どもに関すること】

- ・自治会の役員に若い人を指名する（若い人を入れた自治会）
- ・若者の参加
- ・若者が参加しやすい環境づくり
- ・若者の一本釣り
- ・どの団体についても長老はむやみに力を出し過ぎず、若い役員になってくれた人たちを支える事
- ・徐々に若い世代にまかせる
- ・未来（次）世代に舵取りと責任を
- ・若者が参加したい環境組織づくり
- ・若者が自ら考えるようなサポートづくり
- ・ベテラン世代はサポートにまわる体制
- ・若者を取り込む魅力ある組織づくり
- ・若者の意見を聞く機会をつくり
- ・若い人を活躍の場に立てるよう育成してゆく。若者を大切に…
- ・若者の活躍→事務局⇔若者 活躍できる場づくり
- ・若者を中心に据えた組織づくり
- ・自治会、次の世代が入ってきやすいように（小さな役割から担ってもらう）
- ・子どもが子どもを育てる
- ・子ども達が主役のまちづくり・地域づくり（存在の価値を↑）
- ・子どもの自治組織
- ・子供達が大人になってから住みたいと思える街にしたい
- ・子どもをきちんと育てる〈地域人として〉

【団体運営や活動に関すること】

- ・ 連合自治会の標準化
- ・ 全戸自治会加入
- ・ 自治会に入りたくなる環境づくり
- ・ 地域の状況に応じた組織のアレンジ
- ・ 行事の選択
- ・ 喜び楽しめる行事
- ・ 人を集める人がいる組織がある
- ・ 仕組みがしっかりと創られている組織が良い
- ・ 仕組みを創ってしっかりと見直し改善していける組織が必要
- ・ イベントを1つにする。例えば、婦人バレーボールとレクレーションバレー
- ・ 2つの組織を1つにする
- ・ 支え合える組織が良い（育て合える）
- ・ 自治会にただ入れというのではなく、自治会が地域に果たす役割などの周知すべき
- ・ 自治会の加入について説明を十分にしながら気長く説得するとして入ってもらう
- ・ 自治会組織として個人に負担をかけるようなことは避けていく
- ・ 組織の簡素化
- ・ 失敗を責めない組織づくり
- ・ 一人一人のニーズに応えるための組織づくり
- ・ 不必要な事は削って、必要な事をちゃんとやれる組織を作る→動き出すことで新しい人を巻き込み良い循環が生まれる

【団体役員、人材に関すること】

- ・ 役職に適正な人材がいる組織が良い
- ・ 自治会においては会長になってくれた時にはその会長の補佐を十分に協力できる様に組織作りをする
- ・ 人材育成は循環型で
- ・ 楽しく組織を運営できるようにしていく
- ・ 支え合い、育て合う組織を創る
- ・ 人づくりが大切

【会議や話し合いに関すること】

- ・ ざっくばらんな話し合いができる集会を
- ・ 話し合いの意見を出し合える場をつくれる人がいる

- ・自治会 誰の意見も尊重する（風通しの良い）
- ・夢を語れる場づくり
- ・困ったこと、助けてほしいことを言える自治会
- ・住民の課題を解決するための窓口（行政）
- ・地域の全世帯をとりこんでの事業を考える（自治会未加入者も含め）
- ・公民館を巻き込んでの事業を計画する

【交流や連携に関すること】

- ・地元の企業と連携できる組織があると良い
- ・仕事と自治会をマッチング出来れば
- ・つなぎ役がいる
- ・各世代間の交流
- ・若者、子ども、お年寄り全員でのコミュニケーションの場
- ・課題と解決のための地域のコーディネーター→「できる事の交流」
- ・学校と地域の接点を考える
- ・子どもと自治会 改善

【目指す地域の姿や理念・ビジョンに関すること】

- ・こうありたいという地域の理念をつくる
- ・目指すビジョンを分かり易くつくり、共有する
- ・あるべき姿の明確化
- ・自助、共助、公助の意識
- ・地域の良さを知ってもらう
- ・人財の対象は子ども（人づくり）
- ・地域の人に育ててもらわないと地域人になれない
- ・元気で安心して暮らせる地域づくり
- ・他の地域から移住してくる様な町づくり

【その他の意見】

- ・会社が少なく個人業が多い。改善する策はあるのか？
- ・やっぱり若い公民館主事が必要になるのでは？（事務局）
- ・やはり地域を良くしていく為にも基本は家族、そして近所のつながり
- ・年を重ねても活躍できる場（必要とされる事）

議題（２）次回の委員会に向けて

委員長	各班に分かれて色々な議論が出来た。本日の意見を取りまとめて、各班で分からない意見、違う意見もあると思うので、その取りまとめた意見を基に次の会に繋げればと思う。また、正解も間違いもないと議論をしていると思うので、いろんな案がある中で、西条市にあった地域コミュニティというのをつくればと思う。その題材となるのが本日出た意見だと考えるので、また次回、話し合うこととしたい。
委員長	他にないか。以上で本日の議題としていたものがすべて終了しましたが、最後に事務局から何かあるか。
事務局	— 事務連絡 —
委員長	それでは、以上で本日の委員会を閉会する。
	「了」

(第3回) 地域コミュニティのあり方検討委員会 会議録

○ 日 時 平成30年7月9日(月) 午後7時00分から午後9時00分まで

○ 場 所 西条市役所 庁舎新館4階 404会議室

○ 出席者 委員(14名)

青野 信樹	委員	阿蘇 浩造	委員	井上 康	委員
宇佐 裕次	委員	岡本 将広	委員	川上 善秋	委員
黒河 幸子	委員	白石 澄子	委員	田口 勝三	委員
田口 勝敏	委員	野島 貴子	委員	野田 ゆり子	委員
坂東 君良	委員	渡部 克彦	委員		

アドバイザー(1名)

櫻井 常矢(高崎経済大学 地域政策学部 地域づくり学科 教授)

事務局(5名)

田村三智子(企画情報部 市民協働推進課長)

井上 直樹(企画情報部 市民協働推進課 協働推進係長)

戸田 和宏(企画情報部 市民協働推進課 地域組織係長)

戸田 聖子(西条市市民活動支援センター)

竹内 敏博(西条市市民活動支援センター)

○ 欠席者 處 淳子 委員

○ 会次第

1 開 会

2 委員長挨拶

3 議題

(1) 前回の振り返り・総括

(2) 地域コミュニティに期待される役割

(3) その他

4 閉 会

○ 議題審議

議題（１）前回の振り返り・総括

前回の会議録をもとに振り返りを行った。

議題（２）地域コミュニティに期待される役割

（※３つのグループに分かれて協議を行った。協議の際に付箋に書き出した意見を分類の上、以下に掲載。）

『テーマ① 地域コミュニティで取り組むべきこと（地域が取り組まないと出来ないテーマ）は、どのようなことか』

【親睦・交流】

- ・笑顔で楽しく生活できるように（共同の力を強める）
- ・コミュニティ活動・交流
- ・近所間のつながり
- ・周辺地区とのつながり作り
- ・自治会同士の交流
- ・地域の方を良く知っている事、交流ができる
- ・上下間の交流
- ・子ども達と地域の高齢者との交流
- ・各種団体がバラバラでない事

【高齢者福祉】

- ・地域の高齢者同士の交流、公民館、自治会
- ・高齢者の話し合いの場を作る
- ・高齢者の地域社会活動への参加（生きがい）
- ・これからもっと老人社会、老人を元気にする会を持つ（老人の楽しみを作る）ミニデーなどはしているが
- ・生きがいづくり

【環境・美化・景観】

- ・ごみなど衛生管理
- ・地域の環境を良くすること（一斉清掃）
- ・景観等気持ちよく住める環境の維持

【防犯・見守り】

- ・高齢者の見守り
- ・一人暮らし高齢者の見守り
- ・認知症の方や障がい者の方への見守りなど
- ・困ってる人の家への簡単な手伝い
- ・子どもの見守り
- ・子どもたちの見守り（不審者、交通安全）
- ・子どもの見守り、通学路は安全か？
- ・児童、生徒の安全確保
- ・防犯予防

【防災】

- ・危険箇所の確認と対策
- ・防災について
- ・自主防
- ・防災（地域の中で本当に安全なところはどこか？ハザードマップ頼りではなく）

【文化・伝統】

- ・地域の伝統行事の継承
- ・子ども達に地区の風習や行事を体験、伝えていく

【人材育成・教育】

- ・人材育成
- ・後継者の育成（3年後、5年後、10年後をみすえて）
- ・13才～18才 中高生への教育（道徳）
- ・18才～30才くらいの若い親への教育（道徳）
- ・7才～12才 小学生と①18才～30才、②30才～80才世代を超えた学習
- ・0才児と12才児童とのふれあいの場、赤ちゃん登校日

【地域課題の把握と共有】

- ・各地域の課題を明確にしていく
- ・地域課題の見える化・共有
- ・自治会内の現状把握、見える化
- ・地域のビジョンのまとめ
- ・活性化の為の提案
- ・地域の問題の発掘

- ・その地域独自の課題（地域によって違うため地域内の話し合いが必要）
- ・地域の課題解決のサポート
- ・地域に必要な事が良く解っており取り組みやすい
- ・情報共有（単組織内、各組織のつながり）
- ・組織の仕事の共有化（より多くの人と）

【その他】

- ・各種団体への橋渡し
- ・地域の結び役になる事
- ・多様性のみんなのつなぎ…
- ・地域にある組織で連携をはかり統合と多様性のミックスを図ること
- ・自治会の役員会の開催をする。話し合いをする
- ・若年層の地域社会へのデビュー
- ・若い人達に頑張ってもらう為に公民館などにいろいろな相談窓口を作ることがいいと思う
- ・地域の公民館をもっといろんな人たちに利用してもらうようにしてほしい。今は特定の人が多いような気がする

『テーマ② 地域コミュニティが取り組むべきことを実施していくために必要なこと、大切にしないといけないこと、目指すべき姿について』

【人材育成について】

- ・人材育成
- ・リーダー、サブリーダー人材育成
- ・リーダーの養成
- ・勉強会、反省会の実施
- ・まとめ役、提案してくれる人必要
- ・どの人もすべて大切です!!
- ・地域の様々な世代が学べる場の（生涯教育の場）提供

【会議・話し合いについて】

- ・話し合いの機会を増やす
- ・上下が気兼ねなく話せる場
- ・気軽に集まれる場（たべたり、のんだり気楽）
- ・テーマを実現するために各種団体で協議する場を設けていく

- ・参加しやすい、話し合いの場（気軽さ、ハードルの低さ）
- ・話し合いの場を作る（若い人、高齢者）
- ・継続した話し合いの場

【世代間交流】

- ・子どもが来る行事
- ・大人・子ども合同の行事（ソフトボール大会など）
- ・地域でもっと若い人と老人も触れ合えるようなスポーツなども良いのでは
- ・子ども、若者との交流を考える
- ・年齢問わずコミュニケーションの場づくり
- ・交流の場を多く（世代間を超えて）
- ・高齢者が若者の行事に参加、協力
- ・地域の人の名前を知る、子ども達も!!

【連携について】

- ・各団体の連携
- ・自分で出来ないことを他人に頼める関係づくり
- ・各種団体の連携を図る
- ・各種団体をつなぐ、場所、人、設定
- ・老人会を PTA が設定、子ども会を消防団が設定するなど
- ・横のつながりをつくる
- ・団体間の共有の強化
- ・組織の簡素化、つながり強化
- ・婦人会は女性だけ、自治会はほとんど男性。融合出来ないものか。地域の運営を男女比が半々
- ・各種団体との交流、意見交換
- ・学校、健全育成、公民館などが一緒にできるように
- ・各種団体のバランスが取れるように会を時々持つ事も良いと思う。人を知るという事にもつながる
- ・多くの団体とまじわる

【つなぎ役やコーディネーターの必要性について】

- ・コーディネーターの必要性
- ・地域のコーディネーターの配置
- ・課題解決の為のアドバイザー依頼
- ・地域有名人の活用、コーディネーター

【場の提供について】

- ・若い人達がもっと参加できるような行事をふやす
- ・高齢者が生きがい、有用感を持てる仕掛け
- ・自治会は年功序列なので同じ世代がかたまる⇒新しいポジション（30代 40代）を作る
- ・退職後の生きがいづくり（場づくり）仕組み
- ・高齢者の活躍、働く場の創出
- ・各世代の活躍できる場づくり
- ・人を集める

【地域の計画やビジョンについて】

- ・ビジョン、計画など目に見えて振り返れるもの
- ・計画、振り返り、継続の仕組み
- ・地域自治の目標明確化
- ・やるべきことの明確化（はっきりしていること）
- ・住民が何に困っているか、どうしたいかの把握
- ・ビジョン計画（地域づくり）作成する
- ・地域の課題を共有する
- ・目的を把握する人が一部⇒オープンに共有化
- ・状況とニーズに基づいたビジョン⇒提案者不足⇒養成
- ・地域ビジョン計画の見直しなど仕組みをしっかりとつくる
- ・地域自治の目的を地域住民、総ぐるみの理解⇒後継者へとつなげる（中学生以上くらいで）
- ・地域住民への課題アンケートと対策検討
- ・地域の情報発信の強化
- ・自治会内の現状を把握し役割の見直し

【地域コミュニティに対する意識について】

- ・楽しくすること→懇親会、飲み会
- ・地域で助け合おうという意識
- ・楽しい、面白いしかけづくり
- ・ボランティア意識の向上
- ・自らが意識する（取り組む）動く力に
- ・同じ事ばかりを行っている。新しい事を考えて行っていく。
- ・地域の中に生活の一部があるという実感
- ・地域がよくなることで自分の生活もよくなるという意識

- ・地域での有用感
- ・地域に頼る地域は頼れるという信頼感
- ・生活上必要なことは自分でやる
- ・共同の精神の向上
- ・人それぞれの個性を生かしモチベーションを上げてあげる。
- ・各行事に取り組む姿勢
- ・無いものねだりの住民
- ・ボトムアップ型の地域づくり

【公民館について】

- ・地域に根差した公民館の支援体制
- ・公民館の体制強化
- ・公民館をまき込み各団体で取り組みが出来ていない事を話し合う。横のつながりを持つ!!
- ・公民館の活用（多くの人に利用願いたい）

【行政との関係やサポートについて】

- ・地域と行政の新しい関係、パートナーシップ
- ・地域ポイント（ボランティアをポイント化・見える化）
- ・自治に対して住民が多くの税金をはらう。⇒その見返りやサービスを住民が受けられる。⇒イベントへの参加増
- ・地域に対する行政のフォロー、応援体制の強化
- ・行政とも連携をする
- ・委嘱状を出す

【その他】

- ・実動部隊
- ・役割交代（年齢で？）上の方がフォローに変わる
- ・子育てが安心出来る地域づくり。
- ・防犯＝交通（見守り）
- ・男性＝女性（子育て協力）
- ・大型集落と小集落、同じ仕組みで良いのか
- ・高齢者の交通手段
- ・地域の力のある人のサポート
- ・交通安全講座（高齢者）

議題（３）その他

委員長	他にないか。 ないようなので、以上で本日の議題としていたものがすべて終了しましたが、最後に事務局から何かあるか。
事務局	－ 事務連絡 －
委員長	それでは、以上で本日の委員会を閉会する。
	「了」

(第4回) 地域コミュニティのあり方検討委員会 会議録

○ 日 時 平成30年7月23日(月) 午後7時00分から午後9時00分まで

○ 場 所 西条市役所 庁舎新館4階 404会議室

○ 出席者 委員(12名)

青野 信樹 委員 阿蘇 浩造 委員 井上 康 委員

岡本 将広 委員 川上 善秋 委員 田口 勝三 委員

田口 勝敏 委員 處 淳子 委員 野島 貴子 委員

野田ゆり子 委員 坂東 君良 委員 渡部 克彦 委員

アドバイザー(1名)

櫻井 常矢(高崎大学 地域政策学部 地域づくり学科 教授)

事務局(5名)

田村三智子(企画情報部 市民協働推進課長)

井上 直樹(企画情報部 市民協働推進課 協働推進係長)

戸田 和宏(企画情報部 市民協働推進課 地域組織係長)

戸田 聖子(西条市市民活動支援センター)

竹内 敏博(西条市市民活動支援センター)

○ 欠席者 宇佐 裕次 委員 黒河 幸子 委員 白石 澄子 委員

○ 会次第

1 開 会

2 委員長挨拶

3 議題

(1) これまでの振り返り

(2) 広域コミュニティについて

(3) その他

4 閉 会

○ 議題審議

議題（１）これまでの振り返り

資料をもとに、これまでの振り返りを行った。

議題（２）広域コミュニティについて

（※３つのグループに分かれて協議を行った。協議の際に付箋に書き出した意見を分類の上、以下に掲載。）

『テーマ① 広域コミュニティの活動区域（エリア）は、どうあるべきか』

【単位自治会を区域とする】

- ・ 単一自治会→各班
- ・ 単位自治会の範囲
- ・ 隣接する自治会諸団体に構成する

【小学校区（公民館単位）を区域とする】

- ・ 小学校で小ミーティングして
- ・ 基本は小学校区単位 子ども 200 人（MAX 中学校区）
- ・ 小学校の単位なんだろうけど…
- ・ 神拝と田野を比較すると人数差がありすぎる
- ・ 気軽になら小学校区
- ・ 小学校単位→最小かな！
- ・ 丹原地区なら小学校区が良いと思う
- ・ 公民館単位
- ・ 学校と各種団体が連携しやすいエリア
- ・ まず小学校区の中で考える、そして各校区の自治会の中でまとめる

【中学校を区域とする】

- ・ 中学校区
- ・ 中学校区（お祭り）
- ・ 広域なら中学校区
- ・ 学校としてのプライド、中学校は高い

【地域の実情に応じた区域設定の必要性】

- ・ 一体感のあるエリアが校区によって違いがある
- ・ 同じ仕組みは無理がある
- ・ 地区に合ったエリア

『テーマ② 広域コミュニティの組織構成は、どうあるべきか』

【地域で活動する各種団体を構成する】

- ・ 自治会を中心とし、地域の各種団体を含む
- ・ 単位自治会
- ・ 自治会長
- ・ 婦人会
- ・ 消防団
- ・ 学校
- ・ 愛護班（班長）
- ・ PTA
- ・ 自治会と PTA の連携
- ・ 青年団
- ・ 公民館の協力委員会、PTA、愛護班、民生等色々な団体の長が入っている
- ・ 各種団体連絡協議会 30 団体
- ・ 〈丹原地区〉老人会、婦人会、PTA の融合 世代
- ・ 各種団体が一つになること
- ・ その地域にある団体すべて そこから一本釣り
- ・ 自治会＋PTA、おやじ部～女性層が少なくなるのでは
- ・ 校長先生、教頭先生

【若者が参加しやすい組織構成にする】

- ・ 自治会中心は 30～50 の若手男性 or 女性
- ・ 小学校 PTA メンバー
- ・ 中学校 PTA メンバー
- ・ ～20 代
- ・ 商工会→若い方がうまく機能している
- ・ 青年団は？（若年者の組織は…）いまどうなっているのか
- ・ 青年団を再グループ化してみても？
- ・ 若い人を上手くまきこむきっかけに
- ・ 年齢の幅をそれぞれ取って、その中の若い人達に頑張ってもらえるような組織作り
- ・ 子育て世代を必ず入れた組織作り

【中学生、高校生が参加できる組織体制にする】

- ・地域出身の高校生
- ・若手も老人会等の課題解決に参加
- ・中学校生徒会
- ・中学生生徒会メンバー←考え方をしっかりもっている、成長にもつながる
- ・お堀プロジェクト←学生発送←別地区にいても高校生ならではの発想があるはず
- ・地域出身、高校生

【企業も広域コミュニティを構成する組織の1つ】

- ・企業
- ・地元企業
- ・商工会

【その他】

- ・話し合いがしっかりできる組織体制
- ・地域全体の意思決定ができる場
- ・あて職ではなく、やる気のある人が継続して参加できる組織
- ・各種団体が一体となって連携
- ・横の連携、つながりを持てる組織
- ・各種団体が話し合いできる場
- ・横の連携体制がフラット
- ・老若男女
- ・男女比を同じくらいに
- ・これまでのベースで考えがち、だが全く違う！
- ・「こうなりたい」から組織構成を考えるべき
- ・どこに入れば良いか？→中学校の教員、小学校の教員、それぞれスタンスがちがいすぎるので！

『テーマ③ 広域コミュニティの拠点について』

【公民館】

- ・公民館
- ・公民館←名前がよくないかも←そのときだけ名前を変えても
- ・事務は公民館の職員がいい！
- ・各地区公民館又は集会所

【商工会・企業・商店】

- ・商工会館など
- ・商工会
- ・商工会議所など企業施設
- ・企業と連携
- ・1つのところにきめないでいろんな企業に協力要請
- ・スーパー（空き店舗など）
- ・ホテル
- ・居酒屋（複数用意）（ノンアルもありの）
- ・JA
- ・農業倉庫
- ・食事処
- ・すでにある建物で

【使用に制約が少ない場所】

- ・アルコール、飲食物持ち込み可の場所
- ・24時間（いつでも利用できる）

【その他】

- ・みんなで勉強できる場をつくる必要
- ・オープン和室、カフェ、スペース（公的）
- ・学校内

『テーマ④ 広域コミュニティの事務の担っていくために必要な人材は？また、どんな方が事務を担うべきか』

【地域のことが好きな人・地元出身者】

- ・地元地域の好きな人（有償スタッフ）
- ・想いがある人、地域に
- ・地域出身者
- ・地元 LOVE な方⇒想いがある人がどんどん巻き込んでいく
- ・地域が好きな人
- ・地域（地元）出身で地域づくりに熱心な人材

【公民館職員・地域担当職員（市職員）】

- ・常勤の地域担当職員

- ・地域づくりの担当職員
- ・公民館拠点と事務処理
- ・公民館職員⇒人員、人財、補完
- ・再任用の館長ではダメかも
- ・地域に根付いた市役所若手やり手職員
- ・地域づくりを担当する委員を公民館に配置
- ・公民館がつなぎ役、コーディネーター役を担う

【地域の実情に応じた人員配置】

- ・地域のビジョンや活動に応じた人材の配置
- ・規模により事務局のスタンスは違う！

【事務を複数で担う事務局体制の必要性】

- ・複数人雇う
- ・複数で、2人いる、だれでもできるように
- ・単独の事務局ではなく、公民館職員との連携
- ・メンバー内の有志+α

【地域コミュニティの事務を担うために必要な意識や能力など】

- ・固定観念にとらわれず柔軟な発想で考えられる人材
- ・地域での話し合いが円滑にできる雰囲気づくりができる人材
- ・地域のことを良く知っている人材
- ・地域の各種団体をサポートできる人材 会長（代表）
- ・公民館事業と連携が図れる人材
- ・コーディネートをする人と事務する人
- ・PC使える人
- ・話をきく力がある人
- ・フットワークの軽い人
- ・話す力量のある方
- ・地域を良くしたい熱意のある人材
- ・地域のニーズをとらえて動ける方
- ・「できる人」じゃなくて「やりたい人」
- ・移住、遠方から来た人⇒まき込めばすごい戦力に！
- ・各種団体を調整する（事務局を担う）人材

【その他】

- ・商工会の事務の方（地域の人）補助金などお金の工面で
- ・ボランティアではなく、しっかりと給料を支払う
- ・地域で育ててまかせる
- ・各種団体の事務をサポートする人材
- ・リーダーによる

『テーマ⑤ 広域コミュニティが活動するために必要な行政支援と市職員の役割について』

【財政支援】

- ・地域活性化の為にイベント活動費の助成（大会の賞金）
- ・企業での地域活性化するための助成金
- ・惰性で使っている費用を見直して、広域コミュニティが運営できるように
- ・お金（出し方、ルール）
- ・市の方も地域コミュニティに予算をつける
- ・補助金の見直し
- ・自治会活動へ補助金等を出すべきである、活性化
- ・補助金出しやすくしてほしい
- ・補助金手続きの簡素化
- ・地域の活動を評価し、ボランティアではなく地域へお金を交付する
- ・地域コミュニティへの予算措置
- ・話し合いの場に対する行政の補助
- ・情報、経済的支援
- ・地域予算の拠出

『地域からの提案や地域の実情・事業に応じた財政支援』

- ・地域からの提案事業に対する予算枠を
- ・補助金は事業評価に合わせて交付する
- ・地域のボランティア、努力を評価し活動に対する経費に対し補助金を交付
- ・地域のニーズに基づく予算を！
- ・一律ではなく地域に合ったお金
- ・地域の実情に応じた（合わせた）補助金の制度に
- ・本当に地域にとって必要な所に支援（補助金）を

『地域にとって自由度の高い財政支援』

- ・補助金に地域の裁量を

- ・地域で何にでも使えるお金の支出
- ・公民館一括予算へ
- ・補助金活動費に懇親会費含んで
- ・もっと地域が使いやすい補助金制度に

【人的支援・人材育成支援】

- ・コーディネーター、先生
- ・人材派遣
- ・行政職員への派遣要請
- ・市の職員を公民館へ配置する
- ・人材への財政支援⇒コミュニティ支援地域づくり人材を公民館へ
- ・地域づくりのためのリーダー育成教育

【行政によるコーディネート及びサポート】

- ・学校、地域と行政と企業のコーディネート
- ・地域と県・国とのつなぎ役
- ・オリジナル商品、地域商品の開発などのサポート
- ・継続した地域へのサポート意識

【地域活動への市職員の参加】

- ・市職員も校区のコミュニティに入り意見交換会をする
- ・市職員の校区会をつくり必ず地域活動に参加する
- ・色んな分野の勉強をしてきて地域に発信、地元でも率先して活躍
- ・地域の行事に積極的に参加

【市職員の意識改革の必要性】

- ・市職員全員参加で地域づくりを定期的に考える会
- ・市職員の人全員にも広域コミュニティ、シティプロモーション、シビックプライドなどを共有してほしい
- ・言葉、考え方を共有してほしい
- ・人によるバラつきを少なくして下さい
- ・笑顔が少ない（人、部署）がいる
- ・心配り、心配り
- ・前向きな考え方を持つ
- ・「できない！」ですませないでほしい
- ・責任を果たすこと

- ・遠慮せずにひっぱっていい（情熱をもって）３年ほど？
- ・職員の意識を変えて下さい。上を向いて仕事をしない！
- ・地域の主となって取り組んでくれる丹原地区の若手公務員には感謝！
- ・考え方を柔軟に
- ・タテ割り行政を解消すべき（意識改革が必要）

議題（３）その他

委員長	他にないか。 ないようなので、以上で本日の議題としていたものがすべて終了しましたが、最後に事務局から何かあるか。
事務局	— 事務連絡 —
委員長	それでは、以上で本日の委員会を閉会する。
	「了」

(第5回) 地域コミュニティのあり方検討委員会 会議録

○ 日 時 平成30年9月13日(木) 午後7時00分から午後9時00分まで

○ 場 所 西条市役所 庁舎新館4階 404会議室

○ 出席者 委員(13名)

青野 信樹 委員 阿蘇 浩造 委員 井上 康 委員

宇佐 裕次 委員 岡本 将広 委員 川上 善秋 委員

白石 澄子 委員 田口 勝敏 委員 處 淳子 委員

野島 貴子 委員 野田ゆり子 委員 坂東 君良 委員

渡部 克彦 委員

事務局(4名)

田村三智子(企画情報部 市民協働推進課長)

井上 直樹(企画情報部 市民協働推進課 協働推進係長)

戸田 和宏(企画情報部 市民協働推進課 地域組織係長)

竹内 敏博(西条市市民活動支援センター)

○ 欠席者 黒河 幸子 委員 田口 勝三 委員

○ 会次第

1 開会

2 委員長挨拶

3 議題

(1) 報告書の作成に向けて

(2) その他

4 閉会

○ 議題審議要旨

委員長	それでは、事務局がまとめた資料に基づいて、これまでに検討した内容を議論していきたい。
委員長	まず、地域コミュニティの現状と課題について、意見はないか。
宇佐委員	地域の課題を解決する能力を持った人材が少ないということも地域の課題であると思う。
渡部委員	地域コミュニティを活性化させる方法がきちんと見えていないということも課題ではないか。例えば、1,000人、2,000人を集めることができるようなイベントを考えることができる人材が果たして地域に何人いるのかと考えたときに、足りていないと思う。 西条市がそのようなことをしたいのかがわからないということもあるが、地域で大きなイベントを企画する人材が少ない。南予地方では、そういったイベントをかなりやっているようだ。
委員長	新たに生まれるものが少ないということか。
渡部委員	地域コミュニティだけの課題ということではないかもしれないが、そのような気がする。
青野委員	地域という言葉がたくさん出てくるが、今ある地域、班や組というものが、その範囲では、やっていけなくなっている。今までの地域ではなく、もっと大きな範囲で再編成しなければ、やっていけない状況が目の前にきている。そういったことも見直していかなければならない。
委員長	次に、広域コミュニティに期待される役割について、意見はないか。
處委員	地域内の協議機能を充実させるとあるが、既成の概念で考えると新しい出発点にならないので、例えば、市内では大町地区や橘地区が先進的に取り組んでいるが、そういった取組や県外の取組なども見学したり、交流、知り合いになるという中で新たな発見もある。 新しいことを生み出すことが難しい中で、他の地域の取組が必ずしも自らの地域に当てはまるというわけではないが、このようなやり方なら自分たちも頑張れるということもある。3年や4年という長期のスパンで考えていかなければならない。
野田委員	多様な世代が活躍できる場を提供するとあるが、現状では、何をするにしても参加するのは決まった方ばかりである。できるだけ多くの方に参加してもらうために、告知方法など、どのようにすればいいのかを考えなければならないと思う。

渡部委員	広域コミュニティに期待される役割として、地元企業との連携というものがあるが、企業は、組織的にも人間的にも力があるところなので、企業に期待を寄せるという意味で、もっと強調してもらいたい。
宇佐委員	広域コミュニティに期待される役割は、地域コミュニティ（狭域）の運営管理だと思う。地域コミュニティ（狭域）では、なかなか人材が足りていない状況もあると思うので、人材の育成や充実というものから、地域コミュニティ（狭域）での課題に対する手助けなど。 地域コミュニティ（狭域）で出てきた課題をしっかりと抽出し、出てきた課題に対して広域コミュニティの持っている力をもって解決していくということが大事だと考える。広域コミュニティが地域コミュニティ（狭域）をしっかりと運営管理していくというような立ち位置が大事なのではないかと思う。上下関係というわけではないが、広域コミュニティが一つ上で力も能力も持って、地元企業の力も活用しながら、地域の課題を解決していくことが大事であると思う。
野島委員	広域コミュニティに期待される役割ということなので、期待という言葉に期待して、これまでに出来なかったこと、これまでと違う枠組みを創造するということを打ち出してもらいたい。安心して暮らせる地域というものは、理想を掲げ、自分たちで話し合い、試行錯誤しながら辿り着くものだと思うので、今までの枠組みの中ではなく、しっかりと新しい枠組みを各地域のコミュニティで自ら作りあげるというところを打ち出してもらいたい。
委員長	広域コミュニティに期待される役割について、他にないか。
宇佐委員	地域コミュニティ（狭域）の課題に対して、広域コミュニティで解決するということをイメージしている。地域で出て来る小さな課題はすごく大事にしながらも、地域コミュニティ（狭域）で出て来る課題は、地域コミュニティ（狭域）では解決できないことが多いと思うので、それは広域コミュニティで解決していくというイメージである。
委員長	次に、広域コミュニティのエリアについて、何か意見はあるか。
宇佐委員	広域コミュニティのエリアについては、小学校区くらいの小さな広域コミュニティから中学校区、さらに大きな広域コミュニティというように階層的に広域コミュニティがあり、連携して地域課題の解決にあたるというような、地域課題を解決するための下からの階

	層構造が良いと考える。
委員長	数は増えるかもしれないが、ケースバイケースで地域ごとにあった、地域の実情に応じた広域コミュニティの作り方があればよいと思う。 次に、広域コミュニティの組織構成について何か意見はあるか。
宇佐委員	地元の高校の先生など、学校の先生に来てもらうのはどうか。課題解決に向けて、広域コミュニティは、どうしても力を持つ必要があるので、西条市は、愛媛大学とも連携していることだし、年に数回、大学の先生に来てもらって力を育んでいくべき。もちろん、櫻井先生にも来ていただいて。
處委員	愛媛大学が話に出たが、愛媛大学には、社会共創学部があり、大学生の中にも地域づくりを目指している方がいる。高いところから客観的に地域を見ることが出来る、企業もそういう意味では同じかもしれないが、大学教授や学生も含め、地域の方だけで組織を構成しない方が良いのかもしれない。
宇佐委員	他の地域コミュニティの会長にも入ってもらえば、地域同士のつながりという面で良いのではないか。
野島委員	先進地でなくても他地域の事例は、すごく参考になると思う。
委員長	他にないか。 では、次に広域コミュニティの拠点について、意見はないか。
宇佐委員	資料に記載している事例に追加するという形で、学校というものも入れてみてはどうか。
委員長	他にないか。 次に、広域コミュニティの事務を担う人材について、意見はないか。
渡部委員	これまでに、若いというキーワードがたくさん出ているが、事務を担う人材に対し、若いというキーワードとして入れた方がよいと思う。
宇佐委員	コーディネートということで、重複するかもしれないが、他の地域コミュニティとつなぐ人、バイパス役、自らの地域コミュニティの課題はしっかり見ながらも、課題解決するために、他の地域コミュニティとどんどん繋げていくという役割も必要だと思う。
處委員	事務局を1名置く必要がない地域もあるかもしれないし、毎日、事務があるということもないだろうから、複数の事務局を兼任する方法もあると思う。また、複数の事務局を兼任することで、お互い

	の良いところや、弱いポイントというものをつかめると考える。
宇佐委員	私は、事務を担う方は、キーマンだと思っている。課題を解決したり、そのための仕組みをつくったり、運営管理するという意味では、サポートやコーディネーターという役割より、もっと高いものが求められると思う。地域に対する熱意も大事であるが、能力のある、しっかりとした人材を配置しないとこれからの地域課題の解決ではなく、慣習や風習をそのまま続けていくだけになってしまう気がする。 実際に課題に直面した際に、解決に向けたプロセスを思い描き、地域のみなさんと一緒にやっていける方が相応しいと思う。
事務局	他になれば、次に広域コミュニティに対する行政からの支援について意見はないか。
青野委員	地域の要望に応じて、市職員や専門家を派遣するというのは、どのようなことをイメージしているのか。
事務局	例えば、地域で会議があるときに市職員に来て欲しいという場合や、専門家を地域に招きたいという要望に対して、派遣するといった人的な支援をイメージしている。
宇佐委員	西条市が地域をどのようにしたいのかということがわかるように、情報を細かくわかり易く提示してほしい。また、こういう場合は、こういった補助金がある、このような課題を解決するために、このような補助金を用意しているという情報があれば、団体や企業は、財政的にもっと動きやすくなると思う。
事務局	必要な情報を提供する支援と考えてよいか。
宇佐委員	簡単に言えば、そういうことである。
處委員	補助金というものは、中々、扱いが難しく、地域で自由な発想で使って良いとなると、だんじりや、PTA バレーのユニホームを買おうという発想になってしまうかもしれない。それ自体が悪いということではないが、地域課題の解決というゴールに近づくために、補助金を上手く活用するためのプランナーのような存在が必要だと思う。ノウハウを持った市の職員によるアドバイスなどになるかもしれないが、地域で予算化する際に地域に入って、方向修正してくれるような方がいれば、補助金が生きてくるのではないか。
宇佐委員	行政が地域コミュニティに対して、どのようにしたいかというビジョンを作成し、予算をつけるときには、具体的なプロセスをもって予算をつけるという仕組みを持ってもらいたい。

野島委員	行政の方に、色々とアドバイスをいただいたり、助けてもらうことも多いのだが、担当は、そのプロジェクトのことをよく知っているが、他課の職員は、全く知らないということが多い。 市の職員も地域の住民なのだから、皆で参加しろとまでは言わないが、せめて市の大きなプロジェクトは、職員間で情報共有し、皆に知ってもらいたい。 市民が頑張るのはもちろんであるが、市職員も地域の住民であるという意識を醸成していってもらえたら、もっと違ってくるように思う。
川上委員	行政はタテ割りの状態であり、地域のことは、方々に相談しに行かなければならない。地域課のような部署をつくって、そこで一本化して、地域の出来事を地域担当者が全部集約して、内容によって他課に振っていく。なおかつ、そこに出身地別など、ある程度の地域に区割りして、地域の職員が参加していくような仕組みにすればという思いがある。 もう一つ、補助金についてだが、最初はやれることを簡単にやっていくが、やっぱりお金で行き詰まる。ポスターをつくってもそれをどうやって量産するか、その予算をどう工面するか。そうになると結局、自治会に頼んだり、あるいは地域の企業に頼んだりする。地域を活性化するためにやっているのに、なぜ一般の人からスポンサーを募らないといけないのかとすごく疑問に感じている。そうした時に補助金の効果的な使い方を指導できる、支援できる人がいればと思う。市の職員が持つノウハウを地域は活用したいだろうし、それで地域が盛り上がればと思っている。
田口委員	企業という社報のようなものが、市役所にもあればと思うが。
事務局	システマ的には、庁内 LAN や議会・予算資料等として、職員に情報がまわってくるが、どこまで読み込んで、頭に入れるかというのは、職員しだいというところである。
委員長	次の地域コミュニティに関する市への要望事項というテーマに入っているが、何か意見はあるか。
宇佐委員	地域コミュニティだけに関わらず、市の職員には、何かを担う場合に具体的な青写真をしっかりと描いてもらって、熱意をもって取り組んでいただきたい。ありきたりな青写真ではなくて、西条市がこのようになったらいいと熱弁をふるってくれるような方に担当になってもらいたい。

	あと、地域の課題を解決するために必要なお金であれば、地域から負担してもらってもよいと考える。
事務局	受益者負担を求めるとのことか。
宇佐委員	西条市全体ではなく、その地域にしかない課題があればということだが、この地域の課題だからってというのはあっても良いのではないか。大きな金額でなくても、それが 10 円や 100 円でも、自分がお金を出すなら、興味を持つだろうし、地域に参画する方も増えてくると思う。 楽しいことをやりましょうというわけではないし、明確に見える課題を解決するのであれば、色々な手法や能力のある方に引っ張ってってもらいたい。
委員長	1 名や 2 名、そんな方がいれば地域が変わるかもしれない。
宇佐委員	そんな結果を出そうと青写真が描ける職員が行政に 1 名、2 名いれば変わると思う。
處委員	課題がいっぱいある中で、一つ、二つと地域ごとに優先順位をつけて絞っていかなければいけない。そこに労力と人材を投入することで、前例となり、プロフェッショナルが生まれてくる。
委員長	他に何か意見などはないか。
青野委員	地域コミュニティについて検討してきたが、これは、地域の形を変えていこうとするような、すごく大きな取組であると思う。 これはかなり強力に市民に PR していかないと、何をやるうとしているのか分からないということになると思う。 それは、行政しかできないし、地域が動き始めるまで、行政の方がかなりの力をいれて啓発活動なり組織づくりなりに関わっていかなければならない。 本気になってやっていくのだということを市職員全員がイメージして動いていくことが必要だと思う。市民に周知して、しかも動いてもらうにはかなりのエネルギーが必要である、それをどのように進めていくかという計画が必要であると考えている。
井上委員	自分の地域について考えた時に、地域には 47 の自治会があり、7～8 軒で 1 つの自治会を構成しているところもある。会長も 1 年ごとに交代する方が多い中で、地域の課題が見えてこない。
阿蘇委員	- 橘地区の取組状況を紹介 -
坂東委員	- 大町地区の取組状況を紹介 -
委員長	他に何かないか。

渡部委員	地域コミュニティとは直接関係ないかもしれないが、何でもいいから、世界一を目指した取り組みを考えていく必要がある。それぐらいでないと合併後の西条市は、ひとつになれないのではないかな。 そういった壮大なこと、インパクトのあることを市が打ち出し、地域コミュニティが追随するような仕組みをつくっていかなければならない。
委員長	他にないか。以上で本日の議題としていたものがすべて終了しましたが、最後に事務局から何かあるか。
事務局	— 事務連絡 —
委員長	それでは、以上で本日の委員会を閉会する。
	「了」

(第6回) 地域コミュニティのあり方検討委員会 会議録

○ 日 時 平成30年9月25日(火) 午後7時00分から午後8時45分まで

○ 場 所 西条市役所 庁舎新館4階 404会議室

○ 出席者 委員(14名)

青野 信樹 委員 阿蘇 浩造 委員 井上 康 委員

宇佐 裕次 委員 岡本 将広 委員 川上 善秋 委員

黒河 幸子 委員 白石 澄子 委員 田口 勝敏 委員

處 淳子 委員 野島 貴子 委員 野田 ゆり子 委員

坂東 君良 委員 渡部 克彦 委員

アドバイザー(1名)

櫻井 常矢(高崎大学 地域政策学部 地域づくり学科 教授)

事務局(5名)

田村三智子(企画情報部 市民協働推進課長)

井上 直樹(企画情報部 市民協働推進課 協働推進係長)

戸田 和宏(企画情報部 市民協働推進課 地域組織係長)

戸田 聖子(西条市市民活動支援センター)

竹内 敏博(西条市市民活動支援センター)

○ 欠席者 田口 勝三 委員

○ 会次第

1 開会

2 委員長挨拶

3 議題

(1) これまでの検討内容のまとめ

(2) その他

4 閉会

○ 議題審議要旨

委員長	5月14日の第1回から今回で第6回目となり、最後の検討委員会であるが、皆さんからいただいた意見は、報告書として、市へ提出することになる。 今回は最終確認的な要素になろうかと思うが、事務局を困らせるくらい新たな意見を出していきたいと思うので、よろしくお願いします。
委員長	まず、これまでの意見を事務局でまとめていただいているが、アドバイザーからご意見をいただきたい。
アドバイザー	中々、コメントが難しいところであるが、前回までのまとめの資料に目を通してみると、改めて人材不足、「人材」という言葉が目立っているように感じる。昼に市役所内でも打ち合わせをしていたが、「人材」という言葉がキーワードとして出ることがあり、いずれの分野でも課題となっていることなのだと感じている。それを踏まえて、3点ほど、申し上げる。 1つは、全体的にまとめ方が事務的になっていると感じる。箇条書きでまとめているので、そのように感じるのかもしれないが、理念的なものというか、我々が何を目指しているのかということを出してはと思う。例えば、広域コミュニティの役割のところに記載している「既成概念に捉われず、地域の新たな枠組みを構築する」というように今までとは違うというメッセージ性のあるものであるとか、広域コミュニティの組織体制に出てくる「多様性」という言葉も広域コミュニティの中で大事になってくる理念というか、考え方、メッセージ性の高いものではないだろうか。 これから報告書として、どのようにまとめていくかは協議しなければならないが、全面的に読み手に対するメッセージ性というか、インパクトのある打ち出し方をしてもよいのかなと感じた。 2点目は、人材育成という言葉についてであるが、広域コミュニティに対する行政からの支援について、「財政支援」、「人的支援」、「情報支援」とあるように、項目として「人材育成」を記載することも検討の余地があると思う。 これまでは、自治会や各種団体では、先輩達を見ながら自然と次の世代が育ってきたという時代もあった。少し乱暴な言い方になるかもしれないが、今からは、あえてそういう人たちを育てていかなければならない。行政が育てるということ自体に矛盾があるかもしれない。

	れないが、全国的にそういった仕組みが広がっていることから、人的支援や財政支援と同様に支援策として人材育成という項目をつくってもよいかなと。全体を通して「人材育成」という言葉が散りばめられていることから感じた。 最後に3つ目であるが、広域コミュニティの事務を担う人材、事務局についてのところであるが、「必要なキーマン」、「コーディネート」という言葉は、重要となってくると思うが、「地域の課題解決に向けた高い能力が求められる」という言葉まで書いてしまうと、あくまで地域の課題は、地域の皆さんが解決していかなければならないことから、事務局とは分けて考えるというか、事務局は、コーディネーター役、裏方のような存在だとも思うので、少し整理してみてもいいかもしれない。 皆さんの意見が間違っているというわけではないし、私は、前回の委員会に参加できずに、今回の資料の文字だけを見ての感想として申し上げているので、皆さんの意図と違っていれば、ご了承ください。
委員長	それでは、今回も前回と同様に事務局がまとめている資料の確認や意見の追加という作業になるが、前回の委員会での意見については、赤字で追記されているので、地域コミュニティの現状と課題から確認していきたい。
井上委員	担い手の不足、役員の高齢化・固定化という課題があるが、現状としては1年で役員が交代する。1年間で実績が出来たくらいに交代となり、またゼロからのスタートになる。ある程度、役員を固定化することも必要と考えるが、何年も続けて役員を行える人は、会社を退職した高齢者ということになる。高齢化、固定化が問題というよりも、副会長などへ引き継いでいくなど、人材育成が必要だと思う。
處委員	だからビジョンや理念が必要になるのだと思う。地域の目標や方向性、地域をこのようにするのだという理想があるから役員が変わっても継続されていくのだと思う。地域のビジョンや理念を作らないと、立ち消えになってしてしまう可能性がある。
渡部委員	会社を退職した方が長年やっていくというのが現実的だと思うが、逆に、30代になったら、40歳まで自治会長をやるくらいの改革も必要だと思う。
野田委員	30代や40代の方がいてくれたら、こんな戦力はないが、自治会の

	行事でも若い人は、仕事が忙しいので会議に出ることができないということが多い。運動会をやるにしても、打ち合わせが何回もあるし、会議が多くて、それが重荷となり去年は頑張ってくれた方が今年は来てくれないということもある。実際には、時間にゆとりがある方が動いていくことになるが、その補佐を若い人が時間のある時に行うという形にしていかなければならない。 また、会長が1年ごとに変わると、会長によって考えが変わり、昨年の会長がやったことを、今年の会長はしないということもあるので、井上委員の言うことも大事なことだと思う。
委員長	色々な人が参加できるような組織になっていければと思う。
野田委員	若い人は家庭を守らないといけないので仕事をおろそかにはできない。それでも自分達が住んでいるところだから、自治会にも参画して、頑張っていきたいという気持ちを持っている方もたくさんいることは、よく知っているが、若い人にとって重荷になっているようにも見受けられる。
渡部委員	自治会長という仕事をつくって、給料をもらって、自治会長をする人がいてもいいのではないかな。
アドバイザー	実際に給料をもらって、自治会長をするという事例はある。
野田委員	あれだけの仕事があるのだから、自治会長にお給料を払うということは、反対ではないが、生活をしていくだけの給料を払うのは難しいのではないかな。
アドバイザー	30代で生活するだけの給料をもらっている自治会長はたくさんいる。給料の出どころは、色々だが自治会費として皆で出し合ったり、公民館等の公共施設の管理運営費の中に含まれる人件費であったり、自治会費からと、何らかの形での公費からとで半々ぐらいだろうか。
坂東委員	私のところの自治会は60軒ほどだが、役員会や連合自治会の会議、研修に出席すれば、500円/時間の報酬が出るようになっている。活動報告をもらうようにしているが、時間を使っていることに対してお金を出している。そのようにすることに対して、総会でも異論はなかった。だからといって、なり手が増えるわけではないが、そのようなやり方をしている。
井上委員	いわゆるボランティアも無償ではないわけで、金額の大小はあるが、本来は、そのようにするべきと思うが、自治会長に給料を支払うというのは、役所の仕事のようにになってしまうのではないという

	懸念もある。
アドバイザー	きちんと給料をもらってやっているの、仕事として本気でやっている。本気度が違うから地域づくりも進むが、自治会長なので交代があり、皆さんがおっしゃるように自治会長が交代すれば、やり方が変わるという懸念はある。
井上委員	色々な会議に出席するのは、自治会長、婦人会長、PTA 会長など、代表者ばかりである。 せめて副会長も出席し、組織内に話が通じる人を増やしていかなければ、組織に戻ってもどのように組織内に話を伝えていけば良いのかわからない。
坂東委員	これからは、人口減少で、若者も少なくなるので、逆に 70 代の方も 10 年間は、現役で取り組んでもらって、そういう社会で活躍してきた方を中心として、様々な方が協力していくという組織をつくっていけばよいのではないかな。
委員長	他にないか。では、次に広域コミュニティに期待される役割について意見はないか。
處委員	高校では教科横断という教科の枠組みを越えて学習をしているという話を聞いたことがあるが、地域においても地域横断というか、例えば橘、大町がモデル事業を展開しているが、そういうところに見学に行くとその特色がわかるし、自らの地域では何が足りないのか、何ができるかと考えることができる。私は PTA 連合会の会長として、他地区の学校の会に行かせてもらうことがあるが、地域ごとに特色があって、とても勉強になると思った。また、他の地域の方とも知り合いになれるので、繋がりが広がっていくきっかけにもなっている。
野島委員	広域コミュニティの担い手は、こうあるべきとか、若い人じゃないと、という意見があるが、現状では人口が減ってきている中で、これまでにそういった活動に参加していなかった人の中にもキラリと光る人材がいると思う。リーダーシップのある人や課題解決能力を持った人でなかったとしても、はじめて活動に参加する人にとってもハードルが低く、新たな人材掘り起しといった要素も盛り込んでいただいて、創造性が広がるような部分があって欲しい。
委員長	今まで地域のコミュニティに関係していなかった人が、一步踏み出したくなるような組織であってほしい。
野島委員	今、活躍している方が、できなくなったのであれば、どのような

	サポートがあればできるのかということを考える人が出てくると、もっと人材の幅が広がるのかなと思う。
坂東委員	新しい人材を発掘するために、自治会の役員を交代でやろうとすると、順番に役がまわってくるので脱会するという人が出てくるところが難しい。
野田委員	私の住むところでは、班長が輪番制になっているが、班長になることをお願いにいくと、班長を引き受けるくらいなら引っ越すといわれ、会計になることお願いに行けば、自治会を退会すると言われ、人口が減少する中、皆でうまくやれるのが一番良いが自治会には、そういった厳しさもある。
宇佐委員	会社で組織運営をしていると思うのだが、良い意味で人に依存する組織や人によって変化しすぎない組織というのがすごく大事だなと感じる。人を育てると同時に仕組みを育てていくことが大事なのかなと思う。それが、多様性を活用できる組織とか仕組みとなり、コミュニティには仕組みを育てていく人や力がすごく必要になってくるのだと思う。
委員長	他になれば、次に広域コミュニティのエリアについて意見はないか。
委員長	ないようなので、次の広域コミュニティの組織構成について、意見はあるか。
坂東委員	地域には、色々な行事等があるが、行事の内容によっては、関係のない団体もあるわけで、皆で集まって話し合う必要がある場合と、そうでない場合がある。 組織を構成する全ての団体で何でも取り組もうとすると、参加する頻度が増えて、行事が増えたということと同じになる。
委員長	私が住む飯岡でも来年度の自治会長について議論しているところだが、各組織の横のつながりが課題となっており、地域コミュニティとしてのあり方の問題が根本にある。今ある組織の何を大切にしないといけないのかということ踏まえた上で、既成概念に捉われずに考えていく必要があると感じている。
渡部委員	私の地域には、松山からお嫁に来た奥さん達がつくった「ありえん会」という組織がある。祭りとか、西条の〇〇がありえんという会なのだが、10年くらい前はTシャツを揃えて、よく活動していた。 そういう他所から来た人たちのグループも新たな枠組みとして、組織の中にあっても良いと思う。

川上委員	私は、320 世帯で構成される自治会の会長もしており、月に 1 回、各地区の代表者が集まる会を行っている。 しかし、報告と確認の 2 つで会がほぼ終わってしまい、話し合いということをはほとんどしていない。忙しい時は、10 分で終わることもあり、地域の課題について話し合おうとしても、順番が回ってきたから会長をやっているのです、地域の課題のことはわからないと言われてしまう。 このような閉塞感は、年々高まっていくような気がしており、例えば、皆で櫻井先生の話聞く、他の地域を見に行くなど、外部の刺激を入れていく必要があると強く感じている。
田口委員	地域の課題は、地域で解決するということだが、全員をその気にさせるというか、多様性のある組織、一人ひとりが参加できるような組織にしていかなければならない。 やはり地域を活性化させるためには、一人ひとりの住民を参加させるような組織でないと、とりあえず皆の意見を吸い上げてみるとか、難しいとは思いますが、全員参加の組織になればと思う。
處委員	私は、人を集めることは、簡単なことではないと思っている。今ある組織をどうにかしようとしても難しいので、なんとかしたいなと思っている 4 人くらいで「変人会」といって、集まって色々と話し合いをしたりしている。色々と話しているうちに、盛り上がってきたら、少しずつ人を増やすであるとか、自治会長に相談してみる、一緒にやってみるというようにしていかないと、今ある組織をどうしようとしても突破口はなく難しい。 この人だったら仲間になれるという人と小さな単位から楽しくやっていかないと続かないのかなとも思う。
アドバイザー	今までのお話を聞いていて、組織構成と組織体制の話が混ざってしまっているので、整理した方がいいかもしれない。 自治会、婦人会、老人クラブ、民生委員などで構成するというのは、組織構成の話だが、先ほどの「変人会」や少人数からという話は、組織体制のことなので、分けて考えた方が良いと思う。例えば、校区連合自治会のように、部会制のようなものがあって、福祉部に福祉関係の団体が、教育の部会には教育関係の団体が入ったりする部会制度をとることが多いのだが、縦割りになってしまうことで、横に繋がった意味がなくなってしまうと上手いいかないという例も多い。

	それぞれに地域事情があるので、部会制が良いのか悪いのかということをおこの場で決めることは難しいが、いずれにしても、報告書を作成する際には、組織構成と組織体制については、別に記載した方がよいのではないかなと思う。 あと、もう1つ。広域コミュニティを構成する団体のことであるが、個人で参加してはいけないのかということがある。例えば、地域によっては、自治会に入っていようが、入っていまいが、全世帯の住民を広域コミュニティの構成員として認め、議決権も認めているという例がある。構成団体という切り口で考えると、自治会や婦人会、老人クラブなどが構成団体として名を連ねるのだろうが、個人での参加を認めれば、例えば、私が構成メンバーになることも可能になる。また、「住民」ではなく、「個人」とすることで、地域の外の人でも参加できるようになる。実際に、全世帯を加入世帯として認め、個人全員に議決権を認めている広域コミュニティも全国にはある。好き勝手な発言をされて場が荒れることもあるだろうし、コーディネートすることが難しくなるというリスクもあるが、既成概念に捉われないのであれば、委員会の中でも「地域在住者や地域で活動する団体にこだわることなく」という意見も出ているし、個人で参加することについても検討の余地があるということくらいは、報告書に記載しておいてもいいのかなと思う。 繰り返しになるが、個人としての参加を認めるかどうかを検討する余地を残し、西条市内にも市街地と山間部が存在し、同じように議論できない部分もあるので、あとは、地域で決めていけば良いと思う。
委員長	次に広域コミュニティの拠点について意見はないか。
青野委員	拠点と呼べるかわからないが、インターネット上のコミュニティというものがある。わかりやすいところで、LINE グループのようなものである。全員が参加できて、意見を書き込み、見ることもできれば、物理的なものではないが拠点と呼べるのかなと思う。
アドバイザー	インターネット上にあるものを拠点と呼べるかは難しいところだがコミュニティの範囲は、広がってきている。
委員長	他にないか。なければ、次に広域コミュニティの事務を担う人材（事務局）について意見はないか。
井上委員	事務局というものは、ボランティアでは難しいし、ある程度の行政からの支援が必要だと思う。

	各種団体の会員は、高齢化し、市への補助金申請などの事務も複雑化している。パソコンやプリンターも必要になるし、個人で用意することも難しいので、公民館などでやっていただけるとありがたい。
野島委員	事務局に高い能力を求めてしまうと、人材不足が課題となってしまうので、誰でもできる仕組みというものをつくらなければならない。 主体的に動いてくれる人を増やしていくために地域の理念が必要との話もあったが、広域コミュニティの必要性を周知すれば、もう少しそういった人材が増えてくるのかなとも思う。
井上委員	事務を担ってもらえることがありがたい。書類の作成や会計に関することをある程度、団体の長から切り離して、負担を軽減し、自由に動ける体制にしてもらえればと思う。
青野委員	これまで広域コミュニティや新しいコミュニティのあり方をイメージして議論してきたが、それらをどのような順番、段取りで作りに上げていくのかという議論をしてこなかったのが、事務局に対する考え方が皆で違うのではないかな。 広域コミュニティの組織の立ち上げからスタートするのであれば、事務局は広域コミュニティの必要性をPRできる人や段取りができる人が相応しいだろうし、地域の方に地域に対する問題意識を持ってもらうことから始めるのであれば、事務局に求められる仕事内容が変わってくる。
アドバイザー	この広域コミュニティの事務を担う人材や事務局については、非常に重要な部分である。地域の各種団体の事務が非常に大変であることは理解できるが、その事務が広域コミュニティの事務局にどんどん覆いかぶさってくることで、事務局を辞めてしまうという例がある。 実際には、地域の各種団体の事務を担うということも必要なのかもしれないが、事務を担う人材という切り口で議論すると、事務局の役割は事務だけのように見えてしまう。地域での話し合いの場の提供や様々な情報提供なども事務局の役目になるであろうし、事務を担う人材というよりも、組織をサポートする人材（事務局）という表現の方が相応しいのかなと思う。 あと、これまで広域のコミュニティに関する事務局という存在がなくても地域が運営されてきた中で、急に事務局という存在が現れ

	ると、地域にとってはありがたいかもしれないが、今まで地域の事務などをやっていた方までしなくなってしまう恐れがある。 言葉は悪いかもしれないが、自治力の低下を招く恐れがあるということである。このあたりをどのように表現し、委員会の報告書に記載するかは皆さんのお考えに委ねるところであるが、慎重に表現した方がよいと感じた。 先ほどの話しにあったように、広域コミュニティがどのような段階を踏んで、今後進んでいくのかというシミュレーションをしていない中での議論でもあるし、市内でも人口が多いところと少ないところ、事務などが得意な人材がいる団体とそうではない団体があるという現状では、事務局の役割としては、これまでに議論してきたようにサポートやコーディネートということになるろうかと思うが、地域ごとに事務局の役割を検討していく必要があるのかなと思う。
委員長	次に広域コミュニティに対する行政からの支援について意見はないか。
處委員	ICTを活用した支援というもの取り入れてみてはどうか。
委員長	他に意見はないか。ないようなので、次に地域コミュニティに関する市への要望事項について意見はあるか。
川上委員	公民館は、広域コミュニティへの事務支援や活動の拠点として、大きな役割が期待されているが、公民館は、地域の中心的存在であり、地域の団体だけでは上手く出来ないことも、公民館であれば上手くできることも多い。 市に一つだけ言いたいのは、人事の面である。公民館で働いている人は、皆、一生懸命やっているし、悪いというわけではないのだが、勤務時間の制限や職員の再任用のことなど、もっと公民館を上手くまわしていくためのシステムをつくっていかなければならないと思う。
委員長	他に意見はないか。ないようなので、本日は以上とする。 これまでに6回にわたって委員会を開催してきたが、今回で一度、区切らせていただいて、これまでの検討内容を報告書としたい。 皆さん、お疲れ様でした。
	「了」